

お、あ、つ、ち

第135号

2014年4月21日発行

TEL 0193-42-2111

FAX 0193-42-3855

発行 大槌町議会

議会報



ともだちいっぱい作るぞ！
(みどり幼稚園 入園式)

予算特別委員会の内容 ②～③

審議された議案
議会の動き ④～⑤

組合議会報告 ⑤

一般質問の内容 ⑥～⑩

▲特集▲
復興へのメッセージ ⑪～⑬

視察報告
幼稚園児との交流 ⑭

町方地区盛土工事本格化へ

26年度予算を全員賛成で可決！！

防災行政無線戸別受信機 希望者へ無償貸与
仮設住宅支援員配置事業 町主体で継続実施

26年度予算

予算特別委員会は、3月6日から14日までの日程で開催されました。

委員長には小松則明議員、副委員長には里館裕子議員を選出し、本会議で付託された平成26年度一般会計予算など8会計予算について審査しました。

予算特別委員会での審査終了後、本会議を再開して、採決の結果、26年度の一般会計予算など8会計予算は、いずれも全議員賛成により原案のとおり可決となりました。26年度予算では、復興費を約400億6千万円とし、町方地区などの都市再生区画整理事業をはじめ、防災集団移転促進事業や災害公営住宅整備事業を行います。

また、復興費以外では、災害復旧費として、中小一貫教育校整備事業に約38億円を計上しました。



(仮称)おおつち学園小中一貫教育校の完成イメージ図【平成28年4月開校予定】

新規事業

26年度から新たに実施される事業のうち主なものを掲載いたします。

○防災行政無線戸別受信機整備事業
2億2148万円

災害から町民の生命・財産を守るため、災害時や復興事業の情報伝達体制の整備・確立を目的として、防災行政無線戸別受信機を町民の希望者に対して配付(無償貸与)します。

配布時期・貸与方法については、後日、広報などでお知らせいたします。

○仮設住宅地域支援員配置事業
2億4598万円

町では、26年度より総務省の復興支援員事業を活用し、仮設住宅に居住されている町民の安全と安心を維持するため地域支援員配置事業を実施します。

○在宅当番・救急医療情報提供実施事業負担金
122万円

26年度より大植町内の個人医院(4医院)においても、休日診療が始まります。休日診療については、釜石・大植地区の当番制となっているので、おおむね月に1回程度、町内の個人医院においても休日診療が実施されま

○合併浄化槽設置整備事業補助金
1071万円

下水道認可区域内(現在または将来的に下水道が利用できる区域)への合併浄化槽設置補助金は補助対象外でした。しかし、現在下水道を利用できない認可区域内において被災者の方が住宅を再建され、合併浄化槽を設置していることから、被災者が被災後に認可区域内の未供用区域に合併浄化槽を設置する場合には、補助対象とします。

予算特別委員会の内容

26年度予算の概要

会計名	平成26年度 当初予算	対前年度		採決の結果 全て可決	
		増減額	増減率		
一般会計	502億6000万円	△142億6000万円	△22.1%	賛成 全員	
特別会計	国民健康保険	20億635万円	6635万円	3.4%	賛成 全員
	簡易水道事業	1億8052万円	4943万円	37.7%	賛成 全員
	下水道事業	33億3504万円	△6820万円	△2.0%	賛成 全員
	漁業集落排水処理事業	6億6671万円	△2990万円	△4.3%	賛成 全員
	介護保険	13億7821万円	△1189万円	△0.9%	賛成 全員
	後期高齢者医療	1億626万円	△408万円	△3.7%	賛成 全員
合計	579億3309万円	△142億5829万円	△19.8%		

(予算額は1万円未満を切り捨て、△はマイナス)

予算特別委員会における質疑の一部を紹介いたします。

総務費

◎質疑：町と姉妹都市のカリフォルニア州フォートブラッグ市との交流について具体的な内容は。

◎答弁：震災後初の交流として、町内の高校生2人と中学生2人が26年7月下旬頃訪問する計画となっている。

◎質疑：ケーブルテレビ新規契約分ケーブル引込業務委託料に係る工事範囲について、災害公営住宅のほかに自力再建の場合も含まれるのか。

◎答弁：難視聴地域に自力再建された場合も含んでいる。

衛生費

◎質疑：今後建築される斎場の場所や規模などについて決めているのか。

◎答弁：場所は、被災しなかった現在の火葬場としたい。規模などについては、基本構想を決定し

ており、火葬炉は2炉とし、建築面積は控室などを含め800平方メートル程度、敷地面積は駐車場などを含め2000平方メートル程度必要であると考えている。

労働費

◎質疑：瓦れきの中から写真などを集めて本人にお返しするといった事業が震災以降行われている。自治体によっては、引き取り手が無い物は処分するようだが町の対応は。

◎答弁：アルバム以外にも位牌やトロフィーなどが集まった。処分の判断を行政がすることは難しいことから、思い出返還委員会の中で取り扱いについて検討していく。

土木費

◎質疑：三陸縦貫道について、地権者の移転先が決まらないことには住民の理解が得られず、事業が進まないが、用地確保について町の対応は。

◎答弁：国からは金銭解

決と言われているが、それでは解決が難しいことから、代替地が確保できるように全力で対応し、三陸道の早期開通を目指す。

消防費

◎質疑：三枚堂大ケロ道路のトンネル化について、経路は決定したのか。

◎答弁：基本設計はこれから行うため、今後現場に入り経路について検討していく。ただし、事業費が限られているため、費用が抑えられる経路を選定していくことになる。

教育費

◎質疑：震災後の空気の汚れによる子供たちへの健康被害が危惧されるが、検診で対応できないか。

◎答弁：子供たちの健康安全保持については、粉じんやPM2.5などの状況変化があることから、学校と相談し検討していく。

復興費

◎質疑：蓬萊島に繋がる防波堤について、防波堤から蓬萊島に橋をかけて観光のPRをしては。

◎答弁：島に渡る橋について、観光客などが渡れるようにするか今後検討していく。

◎質疑：吉里吉里海岸海水浴場整備委託料の内容は。

◎答弁：海中の瓦れき調査や水質調査、海岸清掃、仮設の駐車場、トイレやシャワーの整備を行うものである。地元住民やボランティアなどと協力して、夏季に海水浴場として利用できるように対応する。



貸与される戸別受信機

第1回定例会

東日本大震災津波復興計画
(基本計画) が改定

平成26年第1回定例会は、2月28日から3月14日までの15日間の会期で開催されました。今期定例会では、23年12月に策定された大槌町東日本大震災津波復興計画(基本計画)が改定されたほか、大槌町畜産振興基金条例の制定、大槌町公文書公開条例の一部を改正する条例、大槌町託児所設置及び運営に関する条例の廃止に関する条例、辺地に係る公共的施設の総合整備計画の変更、一般会計などの補正予算、平成26年度当初予算など議案30件が提出されました。また、一般質問には5議員が登壇し、町当局の姿勢や施策をただしました。

◆議案—*

◎大槌町東日本大震災津波復興計画(基本計画)
の変更：甚大な被害から1日も早い復興を成し遂げるため、復興の基本的な方向性に関する「大槌町東日本大震災津波復興計画基本計画」を23年12月に策定したところで、策定以降の様々な状況の変化などを踏まえ、復興まちづくりを更に円滑に推進するために本計画の変更をするものです。
(全員賛成・原案可決)

◎大槌町畜産振興基金条例の制定：社団法人大槌町畜産振興公社の解散に伴い、残余財産が町に寄付されることから、残余財産を町の畜産振興に充てる基金にするため条例を制定するものです。
(全員賛成・原案可決)

◎工事請負契約の締結：新町仮設小中学校グラウンド整備工事について、工事に着手したところ、土地の一部において土地所有者の同意が得られなかったため、工事区域を変更する必要があることと、また、グラウンドの材料として火山灰土を予定していたが、天候などの理由により材料入手が困難となったことから、寺野野球場のグラウンド表土を転用するなどの変更が生じたため、工事請負変更契約を締結するも



整備が進む新町仮設グラウンド

のです。
(全員賛成・原案可決)

◎辺地に係る公共的施設の総合整備計画の変更：金沢地区の一部では、水道施設が未整備であり、各戸が個々の沢水などを利用してしている状況で、水源も枯渇し、安定した水の確保が困難になっており、また、衛生上も好ましくなく、安全で安心な飲用水を供給するために、早急に飲用水供給施設を整備し、飲用水の確保とともに衛生面の改善を図るものです。
(全員賛成・原案可決)

◎大槌町託児所設置及び運営に関する条例の廃止に関する条例：大槌町託児所に係る入所児童数が減少しているほか、今後とも入所児童数の増加が見込まれないことから、26年3月末日をもって施設を閉所するものです。
(全員賛成・原案可決)



小槌の託児所での閉所式

議会の動き	
6日	議会報編集特別委員会
10日	政務調査会勉強会
15日	宮城県名取市議会 会派視察
16日	全員協議会
22日	議会運営委員会
24日	第1回臨時議会
27日	東日本大震災復興対策 特別委員会
31日	岩手沿岸南部広域環境 組合議員代表者会 県議長会第4回定例 理事会
3日	産業建設常任委員会 協議会
4日	大槌河川仮堤防工事 安全祈願祭
7日	岩手沿岸南部広域環境 組合議会2月定例会 東日本大震災復興対策 特別委員会
10日	東日本大震災復興対策 特別委員会
12日	議会運営委員会
14日	県議長会第65回定期総会 東部議長会臨時総会 釜石大槌地区行政事務組 合議案等説明会
17日	第2回臨時議会

審議された議案

第1回臨時議会

◆議案―*

◎工事請負契約の締結
：東日本大震災津波によつて甚大な被害が生じた大槌川ふ化場について、大槌川第一ふ化場は23年度に1千万尾の生産規模で施設復旧しているが、今回は、大槌川第二ふ化場を1千万尾のふ化場として改修するものです。
(全員賛成・原案可決)



改修される大槌川第二ふ化場

第2回臨時議会

◆議案―*

◎平成25年度大槌町一般会計補正予算(第8号)を定めること：県営災害公営住宅整備事業の中で実施する旧大槌中学校跡地の土壌汚染対策工事負担金などにより、歳入歳出予算総額に7150万円を追加し、予算の総額を760億6464万7千円とするものです。
(全員賛成・原案可決)



整備が進む旧大槌中学校跡地

釜石大槌地区行 政事務組合

金崎悟朗議員報告

去る2月20日に定例会を開催し、会期は1日限り、付議事件は報告1件、議案8件でいずれも原案のとおり可決された。

釜石消防署庁舎建設(建築主体)工事の変更請負契約の締結に関する専決処分報告については、原案のとおり了承された。26年度当初予算は、歳入歳出それぞれ27億5589万2千円となっており、主な事業としては、大槌消防署庁舎建設工事などとなっている。



完成した釜石消防署庁舎本部

岩手沿岸南部広 域環境組合

岩崎松生議員報告

去る2月4日に定例会を開催し、会期は1日、付議事件5件はいずれも原案のとおり可決された。管理者からは、岩手沿岸南部クリーンセンターの状況として、25年12月末までに災害ごみを含め3万2038トンのごみを受け入れており、24年12月末と比べて6%の増加となっていること、また、25年度末の災害ごみ処理の完了に向けて鋭意取り組んでいるとの報告があった。

また、環境対策の面では、排ガスの環境測定値は良好な状態を維持していることや、放射能対策としてクリーンセンターの飛灰、排ガス及び施設周辺の放射線量を測定し、各測定値は国が定める基準値を大きく下回る結果となっており、その数値が減少してきているとの報告があった。

岩手県後期高齢 者医療広域連合

阿部義正議員報告

去る2月19日に定例会を開催し、会期は1日、付議事件7件を審議し、すべて原案のとおり可決された。

まず、県後期高齢者医療広域連合副議長の選挙が行われ、指名推薦で山田町議会議長の昆暉雄氏が当選した。26年度県後期高齢者医療広域連合一般会計予算における歳入歳出予算の総額は、12億6664万5千円とした。

また、26年度後期高齢者医療広域連合後期高齢者医療特別会計予算における歳入歳出予算の総額は、1509億3390万3千円とした。



18日	総務教民常任委員会協議会
19日	後期高齢者医療広域連合議会2月定例会
20日	建設業協会との意見交換会
25日	釜石大槌地区行政事務組合議会2月定例会 議会運営委員会
28日	第1回定例会(～14日) 議会報編集特別委員会
6日	予算特別委員会(～14日) 議会運営委員会
11日	議会報編集特別委員会
14日	東日本大震災追悼式 議会報編集特別委員会
19日	岩手県沿岸知的障害児施設組合議会
20日	生きた証プロジェクト実行委員会
24日	浪板地区安全祈願祭 災害復旧水門土木工事安全祈願祭 議会運営委員会
26日	第3回臨時議会
27日	東日本大震災復興対策特別委員会
29日	岩手県議会訪問
30日	大槌町託児所閉所式 釜石消防署庁舎落成式



小松 則明 議員

副町長3人制導入の成果は

発災直後からの混乱期を乗り切れた

副町長3人制導入の成果について

【問】副町長3人制導入の具体的な成果と今後の必要性は。

【答】（碓川町長）

副町長3人制について、佐々木副町長には、主に内部管理や庁舎内の全体調整を図ること、大水副町長には、復興事業の推進のため国や県に町の意向を伝え事業を進めること、佐藤副町長には、被災地初となる産業拠点用地、企業誘致などを担当していただき力を発揮していただいた。

これから第二期復興実施計画へ移行するにあたり、復興の進ちよく状況を勘案しながら、副町長3人体制について見直しを行うっていく。

復興計画の改定について

【問】町は単に復旧するのではなく、新生大槌を作らないと生き残れない。そのため、若い人が仕事につき、家族を持ち、この大槌で暮らしていける産業を誘致すべきと考えるが、改定される復興計画では大槌町が生き残れる内容となっているのか。

【答】（澤田総合政策部長）

復興計画の復興に向けた基本的な施策を示す基本計画の改定にあたって

は、「希望の大槌への挑戦」という基本理念のもと、空間環境、社会生活、経済産業、教育文化の4つの生活基盤を整えることにより魅力ある暮らしと風景を再生していきたいと考えている。

消防団員の確保について

こうした取り組みにより、町の魅力が高まり定住促進が図られ、将来に希望を持てるまちづくりにつながるかと考えている。

【問】消防団員の確保が望めないなか、地域防災力の充実強化に関する法律が成立し、公務員の兼業の特例などについて規定された。町では、消防団に対する支援強化を打ち出しているが、研修の一環として、新人職員と



消防団による消防演習

消防団員との連携を図りたいと考えている。

消防団員の兼職は考えているのか。

【答】（平野総務部長）

消防団は、地域における消防・防災活動の要であると認識していることから、職員が消防団に参加

加しやすい環境づくりに努めるとともに、役場職員の地域コミュニティへの積極的な参画や地域防災の強化への貢献をする視点を踏まえ、積極的に消防団への入団を推奨していく。

定例会・臨時会 議員出欠表

議席番号	議員氏名	第1回定例会 (2/28～3/14)		第1～2回 臨時会	
		出席	欠席	出席	欠席
1	三浦 諭	8	0	2	0
2	芳賀 潤	8	0	2	0
3	東梅 守	8	0	2	0
5	阿部俊作	8	0	2	0
6	東梅康悦	8	0	2	0
7	小松則明	8	0	2	0
8	里館裕子	8	0	2	0
9	金崎悟朗	8	0	2	0
10	後藤高明	8	0	2	0
11	岩崎松生	8	0	2	0
12	野崎重太	8	0	2	0
13	阿部義正	8	0	2	0
14	阿部六平	8	0	2	0

仮設住宅の空き室利用の希望があるが

柔軟に対応したい



阿部 俊作 議員

町づくりの基本について

【問】大槌の歴史を伝え、将来交付金に頼らないまちづくりを目指すべきと思うが。

【答】（碓川町長）

震災により壊滅的な被害を受けた町を単なる復旧ではなく、将来に向けて希望を持てる町へと復興させる必要がある。そこで、

一、大槌の豊かな自然風土を生かし、地域の歴史性を踏まえたまちづくり。
二、震災の教訓をしっかりと刻み込み、災害に強いまちづくり。
三、高齢者や子育て世代など町民の不安に寄り添

うとともに、産業振興・企業の誘致を行い働く場所

づくりを進め、町民とともに支えていくまちづくりをしていきたい。

仮設の空き室利用について

【問】大槌に住居を移したいという人達などから仮設住宅の利用希望があるが、空き室の利用を認めようか。

【答】（今民生部長）

26年1月現在227戸の空きがある。根本復興大臣から、被災者以外の入居も考慮し認める旨の説明があった。県では、応急仮設住宅の目的外使用許可を行う



柔軟な対応が求められている仮設住宅の空き室

配8%と6%の道路を新設する予定で、歩行者の通路も設ける計画である。県と密な情報共有と協議の場を設けながら、利便性の高い施設整備を図っていき

町の道路について

【問】町の道路は基盤の目のような形が理想と思うが。

【答】（那須復興局長）

区域内で行き止まりとなっている道路は区域外の道路や区域外の施設を利用するための道路計画である。交通事故などの面から公安委員会などと協議し計画している。

防潮堤の計画について

【問】防潮堤の構造と取り付け道路の設計内容は。

【答】（那須復興局長）

TP14・5メートルのコンクリート被膜堤で2割（角度27度）程度の法勾配である。取り付け道路は最大勾

取り付け道路は最大勾



トラクターを使用しての除雪作業

自然災害への対応について

【問】26年2月の大雪で停電や交通の遮断が起きた。自治会、地域防災や除雪隊などの組織化が必要ではないか。

【答】（青木都市整備課長）

要請のあった場合は、その都度業者に連絡した。地域の自主防災組織の育成・強化を図り、高齢者などの除雪作業が困難な世帯へ除雪支援を行う除雪隊の創設についても、協議し取り組んでいく。



芳賀 潤 議員

JR山田線の復旧は

早期復旧のため具体的な協議を進める

大槌町東日本大震災津波復興基本計画の改定について

【問】復興基本計画の改定素案が示されているが、抽象的でイメージできない。住民が具体的に次のステップや大槌の再生をイメージできるようにしていきたいが、町長の見解は。

【答】（碓川町長）震災前からの若い世代の転出及び少子高齢化傾向に加え、震災後の大幅な人口流出により、町の将来の人口が減少することが懸念される状況を踏まえ、どのような方向性でまちづくりを進めていくのか打ち出した。具体的には、生活の基本となる、安心して暮らせる住環境づくりである「空間環境基盤」をまちづくりの基礎として位置付け、この上に、日々の暮らしに密接に関係している医療福祉、子育て、コミュニティといった「社会生活基盤」、地域を活性化させ、家計を担っていく仕事としての「経済産業基盤」、人づくりを進め文化をつなぐ「教育文化基盤」の3つの基盤が三位一体となったまちづくりを進めていきたい。

【問】町は、鉄道が復旧する前提でまちづくり計画を進めてきたと理解しているが、JR側の提案に対する町としての今後の取り組みは。

【答】（澤田総合政策部長）26年2月11日にJR山田線沿線首長会議を開催し、JR東日本からの具体の説明を受けた。これを受け、県、沿線4自治体及び三陸鉄道では、JR東日本が対応すべき事項として、地上設備・用地は引き続きJR東日本が所有すること、赤字想定額の補填の期間は、持続的な鉄道の維持が可能となる期間とすること、復旧後の運賃は、一定期間JR運賃と同額とする

【問】被災地にかかわらず人手が足りない状況であることから、人員確保のための仮設住宅への入居について町の対策は。

【答】（今民生部長）雇用状況の改善や人口流出の防止のため、雇い証明を持たない新規就労者の

【問】被災地の雇用対策について

【答】（今民生部長）雇用状況の改善や人口流出の防止のため、雇い証明を持たない新規就労者の



JR山田線浪板海岸駅舎跡地

【問】被災地にかかわらず人手が足りない状況であることから、人員確保のための仮設住宅への入居について町の対策は。

【答】（今民生部長）雇用状況の改善や人口流出の防止のため、雇い証明を持たない新規就労者の

【問】被災地の雇用対策について

【答】（今民生部長）雇用状況の改善や人口流出の防止のため、雇い証明を持たない新規就労者の

【問】被災地の雇用対策について

【答】（今民生部長）雇用状況の改善や人口流出の防止のため、雇い証明を持たない新規就労者の

二重債務問題への対応は

解決に繋がるよう関係機関と連携

二重債務問題について

【問】二重債務問題について、自治体が入り込むことは難しいが、町として取り組めることがあるのでは。

【答】（今民生部長）

被災者ローン減免制度（個人版私的整理ガイドライン）は、東日本大震災により住宅ローンなどの借り入れの返済が困難になった方々の生活再建を目的として、借入金の減免を行うものである。

町としては、相談会などの会場の確保をするのとともに、まちづくり懇談会や住民説明会の際に、弁護士から制度の説明を

してもらうなど法テラス大槌と協力し、情報提供を行っている。

今後も関係機関と連携し、二重債務問題の解決に繋がるよう努める。

指定金融機関制度について

【問】町では多くの基金を設け、震災後に多額のお金が基金で管理されている。26年度の預け先ごとの予定金額はいくらか。また、指定金融機関の指定はいつ頃行ったのか。

【答】（平野総務部長）

現在22の基金を普通、定期及び決済性預金で管理している。資金運用面などを含む総合的な判断



東梅康悦 議員



私的整理ガイドラインに関するパンフレット

により、預け先などを決定している。なお、予定金額については、寄付金などの如何によるところもあるため難しい。

平成26年1月末現在の預金額は、岩手銀行大槌支店に510億6433万円、県信用漁業協同組合連合会大槌支店に54億2772万円、花巻農業協同組合大槌支店に28億9532万円など、総額614億8373万円となっている。

指定金融機関である岩手銀行の契約日が昭和40年4月1日であること

から、契約日前の直近の町議会で指定が議決されたと考えられる。

子供達の支援計画について

【問】震災後子供たちや保護者に対し様々な支援をしているが今後の計画は。

【答】（伊藤教育長）

震災で被災した児童生徒には就学支援を26年度も行うとともに、今後も国・県に支援の継続を強く要望していく。心のサポートケアについては、その必要性を強く認識していることから、専門の

カウンセラーやスクールソーシャルワーカーを25年度と同様の体制で学校に配置する。

また、幼稚園や保育所にも専門のカウンセラーの派遣を検討している。

下水道事業の今後の計画について

【問】復興事業により下水道事業がどの程度の地区まで及ぶのか。また、浄化槽整備事業の今後の対応は。

【答】（那須復興局長）

復興事業に伴う下水道認可区域は、25年度において、寺野、三枚堂、椗内、沢山地区の一部分を認可し、安渡・赤浜地区は一部を広げている。

浄化槽整備への対応は、25年度は被災者48件被災者以外は4件である。下水道認可区域内では、従来の補助事業が利用できないため、26年度は町単独事業により被災者の住宅新築の場合に対応していきたい。



東梅 守 議員

防潮堤建設にあたり町民への対応は

まちづくり懇談会の都度説明していく

今後の財政見直しについて

【問】現在、復興基本計画に基づきまちづくりが行われているが、復興後の町財政が心配される。財源となる税収入の減少率が被災地の中で最も大きく、今後の人口減少や新たににつくられる公共施設の維持管理コストなど、町の先行きを考えたとき、この復興基本計画でよいのか危機感を持つ。町として復興後の財政の見直しは。

【答】（平野総務部長）復興基本計画の見直しに伴い策定している実施計画に合わせ、向こう3年間の財政計画となって

いる。復興後の財政の見直しについては、不確定な要素が多く困難であるため、もう少し推移を見る必要があると考えている。また、復興事業により予算規模は膨大であるが、本来の財政状況を把握していくことは重要と考えている。いずれ、復興後は歳入も減少し予算規模も縮小されることが見込まれるため、町の身の丈に合った財政運営をしていかなければならぬものと考えている。

防潮堤について

【問】防潮堤の建設にあたり、過日超工式が行われ、水門建設に向けた工事が

始められている。昨年のまちづくり懇談会での説明では、詳細設計が決定した段階で県の担当者より町民へ説明があるやに聞いていたが、説明会は開かれたのか。また、町に対して詳細設計は示されたのか。

【答】（那須復興局長）

大槌川・小槌川の両水門間の防潮堤については、昨年のまちづくり懇談会において県の土木部より設計から今後の進め方について説明している。また、町に対しては平面図・立面図が示され、構造・詳細設計はこれから示されるものと思っ

事については、今後のまちづくり懇談会の中で県の水産部より詳細設計や用地買収などの進捗よく状況や当面の進め方について説明を行うと伺っている。なお、事業用地買収に直接関係する地権者

は、別途事業及び用地買収に対しての説明会を開催している。全体計画規模が膨大であることから、部分的であっても

詳細設計が確定した時点での工事の進捗よく状況を鑑みながら、まちづくり懇談会の都度、説明していくことが基本であると考えており、町としてもきめ細かい説明が必要であると認識している。

【問】防潮堤による湧水への影響や、防潮堤建設に対する疑問点などを指摘している町民もいる。説明会や議論する場が必要と考えるが。

【答】（那須復興局長）

懸念される湧水については、影響はないものと考えている。



かさ上げ予定地の湧水

議会を傍聴しませんか

6月定例会は6月6日（金）開会予定です。

予定は変更される場合があります。詳しくはお問い合わせください。

復興へのメッセージ

～東日本大震災・大津波、

議会議員の思い～

東日本大震災大津波で壊滅的な被害を受けてから3年の月日が経過しました。多くの町民の命と財産を失った大槌町は復興に向け全職員一丸となって全力で取り組んでおります。

震災からの3年を振り返り、大槌町復興のため議員が日ごろ考えていることなどの感想をいただきましたので、議席番号順に掲載します。



式辞を述べる碓川町長（追悼式）

震災から3年を経て

三浦 諭

震災から3年が経過し、被災した家屋や基礎が撤去され、町方の振り替え道路が作られたことで、目に見える復興が進められております。一方で、

町の目印となるものが少なくなり、震災前の風景を思い出しますと、寂しさを感じます。

平成26年度は、復興計画における再生期とされておりますが、人口減少に歯止めをかけるために住宅と勤務先の確保、医療と教育環境の充実は大町における重要課題であると考えます。

土地区画整理事業や防災集団移転事業、災害公営住宅建設が本格化いたしますが、震災前の大槌に戻すだけの復旧ではなく、大槌を発展させるよう議会・当局一丸となり推し進めていくよう努力して参ります。

昨年、各仮設住宅団地を訪問させて頂きましたことが、遅くなりましたこと

を深くお詫び申し上げます。町民の皆様のご意見を反映させることが私たちの役割でありますので、本年度もご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

3年を振り返る

芳賀 潤

「前を向くしかない」
震災から3年、誰がこれほどまでに、復興が進まないことを予測したであろう。事務的には進んでいるかもしれないが、目に見える形で進んでいない事実はごまかせない。

「地方分権」の言葉も、金が絡むとやはり国家という事になる。いっそのこと、予算の頭打ちを決めて、町の責任で復興させる方が早く、言い訳は許されない、またその責任も持てる。

震災前の当町と比較して、再興するために必要なことは、発想の転換であると思う。震災という事実を逆手に取るような発想がなければ、小さく

なっていくだけである。この数カ月間、住民からの個別の相談で、住宅再建等の悩みを相談されることが多くなってきた。個別の事案等であり「全体の中では聞けない」「聞いても理解できない」しかし、悩んでいる住民にとっては、万事が一事であり、一事が万事である。今を生きることと、明日を生きることとをしっかりと見極めながら政策を作っていくかなければならないと考える。

大震災津波から3年

東梅 守

あの日から3年を迎え、いまなお仮設住宅や大槌を離れた生活を余儀無くされている皆様に心よりお見舞い申し上げます。復興も互れき処理も大方終了し、復興基本計画に基づいて作業を進めていきますが、膨大な仕事量に人手不足や法律・制度の壁が立ちほだかり思うように進まない現状があります。それでもやっとな

年には、小中一貫教育校の建設、市街地の盛り土、住宅再建に向けた用地の整備が進められていきます。一日も早く皆様に希望の保てる大槌を再建出来るよう議員として努力して参りたいと思います。新たな大槌の再建は町民の皆様が必要とされています。どんな些細な事でも御意見を拝聴出来ればと考えます。

3年目で思うこと

阿部俊作

「あの赤い線はなんですか」、十数年前のことになります。私は、県道拡張工事を行っている業者の現場監督さんに聞きました。川面から4〜5メートル上の山肌に赤い線が水平に描かれていました。

「あれは、想定される洪水の水位です」「ええー」と驚いて声をあげた私に監督さんは笑って「百年に一度あるかないかの想定です」と答えてくれました。実際にこん

な洪水が起きたら、川下の町は無くなると思いましたが、

国道45号線には、ここまで津波浸水想定区域という標識が立っていました。

3年前の津波はその標識の正確さを物語っています。本当に町がなくなることは未だに信じられません。

科学はいろいろな事を想定し、警告しています。今から40年前にもなりませんが、科学雑誌サイエンスにシベリアの永久凍土の中にインフルエンザの種々のウイルスや未知のウイルスがあることを警告する記事がありました。

そうした科学の予告警告に人々は、行政は、どう動いたのでしょうか。

お金は人間が編出した便利な道具であって、人の命を支えるための一つの道具でしかないと思えます。まさぐりに莫大なお金がかかります。しかし、そのお金に向き合うことよりも、真剣に人の命に、人の心に

向き合うことがまちづくりに大きなことだと思います。

東日本大震災から3年

東梅康悦

平成23年3月11日に発生した東日本大震災から3年が経過する時、未だ431名の方々がご家族の元に戻られておらず、多くの方々が応急仮設住宅で不便な生活を強いられております。改めて犠牲となられた方々、ご遺族の皆様にお悔やみを申し上げますとともに被災された方々にお見舞い申し上げます。

3年前の大震災で今も生きる多くの方々は、大切な人々を亡くし、長年築き上げた財産をも失いました。そのような状況下で一人ひとりの方々が再建を目指し、一生懸命頑張られている時、議員として果たす役割は何なのかということをおきながら責任ある行動をしなければならぬと思うのです。平成26年

から28年まで復興基本計画の二期目に進むに当たり、今後3年間で住む場所・働く場所等も大分整備されますが、それにはスピード感を持ち、また目に見える事業の進捗をよく確かめるものにしなければなりません。そのためにも議会及び議員が町民の皆様方の負託に応えるよう努めていかなければなりません。

震災から3年

小松則明

震災後、大槌町においても多くの新しい生命が誕生しております。大震災を経験したことのない「3・11」をどのよう

に伝えていくのか、マスコミなどでも大震災を取り上げるのが少なくなりました。被災地の現状をどう発信するのかなど取り組むことも多々あります。いずれにいたしましても一番大切なことは、当たり前のことですが、町民の皆様方の理解を得ながら、町民・行政・議会が三位一体となり進むことだと思います。

「3・11」をどのように伝えていくのか、マスコミなどでも大震災を取り上げるのが少なくなりました。被災地の現状をどう発信するのかなど取り組むことも多々あります。いずれにいたしましても一番大切なことは、当たり前のことですが、町



町中心部復興イメージ図

0人の人口になると、当たり前のように新聞の紙面に書かれ、息が詰まる思いがしております。これくらいの大打撃を受けた大槌町は、震災前の大槌町に再生するのはなく、新生大槌に変わる時であると考えます。

水産業、農業、林業も大事であると重々承知してはいますが、若い人たちが働く場所、大槌町で働き家族を持ち育てる企業誘致が必要と考えます。人口減少の世代は18歳から30歳が多いのも働く場所がないからです。大槌町に大きな税を納めていただけの会社、その会社から納めていただけの税金があれば一次産業への大きなプラスになると考えます。

震災前から、ブランド開発などという名目で少しの予算が町から出ていたのも事実ではありますが、開発するのであれば、他の市町村に負けないくらい、市場では買ってもらえない

『大きな企業誘致を行い、大槌が豊かになり、一次産業ブランドの大きな後押しを行い、大槌ならではの物を作る』これが私の目標であり、子供たちが、爺ちゃんが、婆ちゃんが、それを支える若い人たちが、笑顔で暮らせる町になってほしいと思います。そのためなら私は努力を惜しみません。

『震災復興』への思い

里館裕子

3月初旬、大槌の春本番はもう少し先です。そんな中、海側では早朝から重機が稼働しています。山際には仮設住宅と既存の住宅の集落があり、低地部に目を移すと広範囲にわたる住宅跡地が基礎撤去を終え、間もなく始まる復興事業の色付けを待っています。山状が高く盛られた土の仮置場が点在する安渡周辺の情景です。防災集団移転先団地の

買取状況は、1月29日現在で全地区、すべて買取り同意済との報告がありました。買取率は、地区毎に現時点では隔たりがあります。これは土地区画整理事業にも言えることですが、いずれ地権者との合意に基づく決定がされてこそ先へ進める話です。関係者の方々には、相互理解の難しさや厳しさに直面し、さぞやご苦労多かろうと思う時、ただただ低頭するばかりです。2つの事業を推進する上で念頭に置きたいのは、その根本は復興にあるということ。

地球規模のエネルギーのすさまじさを見せつけられた「あの日」を知っている私たちです。平時の土地区画整理事業ではありません。冠に震災復興の4文字が加筆されていることを心していきたいものです。

大震災から3年

金崎悟朗

あの忌まわしい大震災

我が町をのみ込んでから3年が経ちました。各地から大槌町に応援に來られて、復旧・復興に尽力されている職員の方々、また町の職員の皆様に心より感謝申し上げます。

3年も経つと、これらが復興への本番となり取り組みが加速されると思いますが、今大槌町の議員としてもっとも危惧されることは、将来を見据えた政策が重要とされます。若者が定着し、生活を営むことが出来る事業、すなわち男子型企業を誘致し、担税効果を上げるようなまちづくりをしなければならぬと思えます。

私たち議員は、各種委員会、復興特別委員会を通じ、行政との協議を重ね、復興のための意思を出し合い、大槌町の未来へ向け努力しております。大槌町の皆様におかれましても、苦痛な生活を余儀なくされていると思えますが、必ずや住みや

すい大槌町になると信じ、一日一日を大事に暮らしていけることを望みたいと思えます。

3年目を迎えて

岩崎松生

東日本大震災津波発災から3年が経過しました。改めて犠牲となられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。また、行方不明の方々が一日も早くご家族のもとへ戻られますことを心からご祈念申し上げます。

3年が経過しようとする中で瓦れき処理については、完了の目途がついたものの、町全体としては持ち家再建や災害公営住宅の再建が遅れており、産業面においても中小企業基盤整備機構の整備した仮設店舗での再開に留まっているなど、本格的な事業再開に至ることができない状況であります。

その原因は、用地の確保が進まないことにより、土地のかさ上げや高台移転などの事業が遅れていることにあることから、用地交渉のための職員の確保や土地収用の緩和など、復興を加速させるための取り組みを進めてまいりたいと思えます。

現在、町では大ケ口と三枚堂を繋ぐトンネルの新規整備、大ケ口と柵内を結ぶ大柵橋の拡幅整備に向けて動いておりますが、町民の皆さんに明るい話題が届けられるよう、引き続き頑張ります。

他にも県立大槌病院や小中一貫校の早期整備、基幹産業である漁業や農業の一次産業の復旧など多くの課題を抱えておりますが、町民の皆さんの声に耳を傾け、現地に足を運び、町民の皆さんと同じ目線でこの復興に取り組んでまいれる所存です。

大震災の発生から丸3年を迎え、復興にはほど遠い状況であります。改めて犠牲になられた方々のご冥福を心からお祈りいたしますとともに、被災された方々に心からお見舞い申し上げます。未だに多くの被災者の方々が仮設住宅で不自由な生活をされていることから、一日でも早く元の生活に戻ってもらえるようにしなければなりません。復興を加速化させるための課題はたくさんあります。私は、用地取得が一番の課題ではないかと思っております。国では土地収用制度の事業認定手続きを短縮するなどの特例措置を打ち出しました。ですが、これだけでは不十分で特例制度を設けて超法規的な対応をしないと復興は前に進みません。防集事業の住宅団地の確保状況では地区によって大きな差が出ています。被災者の方が将来に対する設計図を描けるようになれば、精神的にも大きく違ってきます。今年度より再生期となる第二期実施計画が

開始し、瓦れき処理やライフラインなどの応急復旧はほぼ終了し、本格的な復興が見えてきます。住宅の再建、まちづくりや生業の再生などを同時に進めていく中で、復旧だけでなく30年後、50年後の大槌の姿を想像する視点が重要と思われま。復興計画には住民の声があまり反映されていないという声も耳にします。復興計画に通ずる知恵は被災された現場にいた人だと思えます。行政の仕事は現場から出された知恵を形にすること、仕組みを作ることで、施策に立ち上げていくことです。



本格的に始まった町方地区盛土工事

釜石消防本部
庁舎視察



釜石消防署庁舎指令室

去る3月30日、釜石市鈴子町において、釜石消防署庁舎落成式が行われた。敷地面積3995㎡、鉄筋コンクリート造5階建て、延床面積2710㎡で、東日本大震災により被災した大渡旧庁舎の約4倍の広さとなっている。最新の通信指令設備をはじめ、救急訓練設備、多目的資機材倉庫、緊急車両車庫等が完備され、住民を災害から守る防災拠点としての機能が発揮されるであろう。

式典では、管理者である釜石市長の式辞、建設経過報告、施工業者6社と工事車両駐車場提供者1社への感謝状贈呈、来賓祝辞等が行われ、消防庁舎完成を祝した。

大槌消防署庁舎は現在造成工事中で、平成27年度末完成予定であり、ヘリポートも整備される。一日も早く住民の生命・財産を守る防災拠点の新消防庁舎の完成が望まれる。

次代を担う子供たちと編集委員との交流



♪みんなでのおうぎたのしいね♪

26年3月7日、一緒に遊んでく小鎗に移転したみどり幼稚園を訪問し、年長のつばき組の子供たちと一緒にお遊戯をしました。とても元気な歌声が部屋いっぱい響く中で、委員皆童心にかえってはいしゃいでしまいました。

前回好評だった阿部俊作委員による手品の披露もあり、皆楽しい時間を過ごすことができました。

今度も次代を担う子供たちと交流を深めたいと思っております。よろしくお願ひします。

表紙写真は、26年4月9日に同じくみどり幼稚園で行われた入園式の風景です。入園式に参加した3歳児22人は、元気に返事をしていました。



つばき組のみんな～！
どうもありがとうね

★次回の訪問予定★
次号は、6月中旬に「おさなご幼稚園」の予定です。

表紙の「おおつち」を書いてくれたみどり幼稚園のはるかちゃんです。上手に書いてくれてありがとう。



くぼ はるか 遥ちゃん(6歳)

★タイトル作成者★

- (議会事務局 高木)
- 議会報編集特別委員会
 - 委員長 金崎悟朗
 - 副委員長 三浦 諭
 - 委員 芳賀 潤
 - 委員 東梅 守
 - 委員 阿部俊作

▼派遣職員として1年間、議会報編集委員の皆様の下で議会報の作成のお手伝いをさせていただきました。

あつという間の1年で、大槌のために何ができるのかという思いはありますが、次に続く派遣職員にバトンを繋ぎ、思いを託します。

これからも派遣元から大槌を応援し続けるとともに、機会を見つけて訪問し、復興の進捗をよく見守っていきたいと思っております。

私も含め派遣職員を励まして支えていただいた大槌中学校の皆さんを初め、町民の皆さんに心より感謝いたします。どうもありがとうございました。

編集後記